

平成 28 年 6 月 21 日（火）川崎市病院栄養管理部会 第 2 回研修会報告

①最近の食中毒の発生動向と注意すべき食中毒の予防と対策 講師 (株)東京サラヤ 吉村先生

最近の食中毒の発生状況について件数の多い食中毒とそれらの特徴および対策についてのお話でした。

件数の多い食中毒は順にノロウイルス、カンピロバクター、アニサキスであり、患者数で見ると1位2位は変わらず3位はサルモネラです。ノロウイルスやカンピロバクターは少量のウイルス、菌数でも発症感染することから、基本になる手洗いの徹底が重要になります。

アニサキスは目で見る事ができるため、調理の際にしっかり確認することが大切です。

②最近の術後食における取り組み 講師 川崎幸病院 久米先生

栄養指導で「ほかの病院で栄養指導通りにやっていたが食べられずに痩せてしまった。自分で好きなものを食べるようにしたら体重も増えた。」という患者様の言葉を受けて、型にはまった栄養指導をしていないかと？考える機会がありました。

現在は胃切除術の患者様を五分粥程度で退院することを検討しており栄養指導の重要性が高まっています。

③栄養指導における取り組み 講師 総合新川橋病院 小沼先生

診療報酬改定に伴い栄養指導の充実を図る取り組みを行っています。

入院糖尿病教室は手作りの冊子を使用し、外来糖尿病教室では医師も含めテーマを決めて栄養科で作った料理を提供し、その様子を撮影したビデオを外来待合室で流しています。

今後の栄養指導の件数を増やすために栄養指導スケジュールを医師に示し、空き状況を共有し、病棟と連携して場所の確保を行っています。

乳腺外科医との連携をはかり、癌の栄養指導にも力を入れます。

④チーム医療の大切さを実感した症例 講師 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院 辻先生

NST 介入例 90 歳女性 咀嚼嚥下不良 仙骨部尾骨に褥瘡

点滴+経鼻経管+経口食から開始し段階を経て点滴を減らし経口食を増やしていく過程で下痢が出現し、栄養剤を辺櫛、速度や年度に工夫をしてきました。血液検査ではアルブミンと亜鉛の推移を見ていった結果、アルブミンは日を追うごとに増えましたが亜鉛は減少しました。その原因は褥瘡改善に使われたのではないかという見解でした。褥瘡及び全身状態の改善につなげることができました。

食中毒については手洗いの重要性を強く感じ、当院栄養科で行われている体調チェックの意味をスタッフと再確認し、食材の扱いにも細心の注意を図りたいと思いました。

3 病院の取り組みは当院でも当てはまるところがあり、ほかの病院ではどうしているのか、という事を聞くことが出来たことは大変参考になりました。

当院でも今日齶蝕管理では食中毒を防止すること、栄養管理では患者様の苦痛を少しでも和らげられるよう日々努めていきたいと思えます。

医療法人社団 緑彩会 柿生記念病院 管理栄養士 戸ノ岡 薫

